

文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)独立行政法人日本芸術文化振興会

京都観世会九月例会

令和2年9月27日(日) 午前11時開演



俊寛 〈能〉
落葉之伝

橋本雅夫

清水 〈狂言〉

小笠原匡

仏原 〈能〉

河村和重

融 〈能〉
寗

河村晴久

主催 公益社団法人 京都観世会



会場 京都観世会館

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町44 (東山仁王門東入)

お問合せ ☎ 075-771-6114

本公演は新型コロナウイルス感染予防ガイドラインに沿った対策を講じる為、入場制限付きの事前申込制をとらせていただきます(会員様限定)。詳細は、ホームページ等でご案内いたします。ご入場には入場券と番号付整理券ハガキが必要です。

京都観世会館案内図



- ◆京都観世会館へは
 - JR京都駅から
 - 市バス[5][100]で「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車 徒歩約3分 (乗車時間約30分)
 - 地下鉄烏丸線「烏丸御池駅」にて東西線に乗り換え「東山駅」下車 (乗車時間約20分)
 - 阪急京都河原町駅から
 - 市バス[31][46][201][203]で「東山仁王門」下車 徒歩約5分 (乗車時間約15分)
 - 京阪三条駅から
 - 市バス[5]で「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車 徒歩約3分 (乗車時間約7分)
 - 地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約1分)
 - JR二条駅から
 - 地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約8分)
 - 山科・醍醐方面から
 - 地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約9~17分)
 - 地下鉄東西線「東山駅」から
 - ①番出口から徒歩約5分
- ◆東隣に有料駐車場(約20台)がございます。

京都観世会九月例会

成経谷 弘之助
康頼浅井通昭

俊寛 橋本雅夫
落葉之伝

間 船頭小笠原 匡

(能)

清水 太郎冠者 小笠原 匡
主人山本豪一

休憩二十分

(二時前頃)

仏原 河村和重
旅僧 江崎欽次郎
旅僧 大坪賢明

間 所ノ者山本豪一

休憩十五分

道明寺 (仕舞)
松風 味方 團
那 松井美樹
アト 河村和貴

間 所ノ者泉 慎也

融 河村晴久
旅僧原 大
大鼓谷口正壽
小鼓林 吉兵衛

間 所ノ者泉 慎也

附祝言

(終了予定 四時半過)

後見・地謡

(後見) 橋本擴三郎
井上裕久

樹下千慧 浦部幸裕
大江泰正 浦田保親
深野貴彦 浦田保浩
松野浩行 吉浪壽晃

(後見) 泉 慎也

(後見) 林 宗一郎
片山九郎右衛門

大江広祐 分林道治
河村和晃 河村晴道
橋本忠樹 青木道喜
田茂井廣道 味方 玄

(後見) 大江信行
杉浦豊彦

浦田親良 片山伸吾
宮本茂樹 古橋正邦
梅田嘉宏 大江又三郎
吉田篤史 越賀隆之

【お知らせ】

・当館ではアルコール消毒液の設置や、多くのお客様が手に触れる箇所には定期的に清掃・消毒を行っております。
・密閉・密集を避ける為、お座席割のご協力や、換気休憩を随時取らせていただくこともございますので、ご了承ください。
・「検温」「マスク着用」「咳エチケット」のご協力をお願い申し上げます。
・発熱・咳など風邪症状のある場合は、ご来館前に医療機関にご相談ください。
・「字幕解説サービス」専用端末は千円(税込)にて貸出いたします。
今後の状況変化により、催し物の内容変更または延期となる場合がございます。

解説

俊寛 落葉之伝

平清盛の娘、中宮徳子の安産の祈りの為、鬼界島へも赦免使が立つ。島には、平家討伐を企てた鹿谷の陰謀が発覚し、遠流となった俊寛、成経、康頼の三人が居る。成経、康頼二人は今日も、島に勧請した三熊野に参詣し、掃落を祈っている。しかし俊寛一人は神仏をも頼まず。ただ昔を思い、心を閉ざすばかりであった。そこへ赦免使が着く。俊寛は受け取った赦免状を康頼に渡し、読ませる。だが俊寛の名が無い。何とて俊寛をば読み落し給ふぞ。」「さては筆者の誤りか。」「もしも礼紙にやあらん。夢ならば覚めよ」と、現実を受け入れることができない俊寛は、赦免状を地に投げ捨て号泣する。出船の時が来ると康頼の袂にすがり「せめては向いの地にまでなりとも」と赦免使に懇願するが受け入れられない。船の漕にすがり、船に手を合わせ、潜に伏すが、終に船影も人影も消えて見えなくなってしまう。

仏原

都方の僧が白山禪定を志し、加賀の僧に着く。とある草堂に立ち寄ると、女が現れ、当所より出た白拍子、仏御前の用いを勤める。女は更だと言え、昔、平相國の時、祇王という白拍子はその寵愛を受けていたが、清盛の心は仏御前に移り、祇王は髪を下して嵯峨野に庵を結んだ。ところが仏御前も祇王の跡を追う。世を捨て祇王を訪ねた。と。加賀より都へ上った。仏を清盛に取りよしたは祇王であった。しかし清盛の心変わりによって捨てられた祇王の身の上は、明日の我が身を映し取った仏は、世の無常を顧じて自ら仏道に入ったので。実はこの草堂の主は仏御前と言ひ捨て、女は消え失せた。(中入)

東国の僧が都に上つて、六条河原院の跡に着いて休んでいと、田子を抱った老人がやってくる。この辺りの人かど尋ねると、この所の汐波みだと言え、僧が海辺でもな土地で汐を汲むとはおかしいと言つと、ここは昔、源融公が広大な屋敷を造り、庭内に陸奥の塩釜の景観を移したところであると答える。老人は僧の問うままに、融が日毎に難波の浦から潮水を運ばせてここで塩を焼かせるという豪奢な風流を楽しんだが、相續をする人もなく荒れ果てしまったことを物語る。そして、遠近の名所を教え、やがて汀に立ち寄つて汐を汲むかと思ふと、姿は消え失せる。(中入)

お客様へお願い

- ◆都合により出演者に変更がある場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- ◆許可なき写真撮影・録音・録画はお断りいたします。
- ◆場内では携帯電話等の呼出音をお切りください。
- ◆東隣に有料駐車場がございます。満車の際は岡崎公園市営地下駐車場をご利用ください。

【表紙写真】

片山幽雪
金の星波辺写真場撮影

次回予告

京都観世会十一月例会

令和2年11月22日(日)

午前11時開演

(能) 小督 分林 道治

(狂言) 鬼の継子 茂山 千五郎

(能) 半蔀 大槻 文藏

(能) 鉄輪 浦田 保親

早鼓